

キリストを模範として知り、経験する

聖書：ピリピ 2:3-9, 1:19-21 前半

I. もしわたしたちがキリストを模範として知ろうとするなら、キリスト・イエスの中にあった思いを、わたしたちの内側でも思いとするべきです——ピリピ 2:5：

- A. わたしたちはキリストの思いをわたしたちの思いとし、自分自身を開いて、「この思い」をわたしたちの内側でも思いとする必要があります—— 3-5 節：
1. 5 節の「この思い」は、3 節の思うことと、4 節の目をとめることを指しています。
 2. 謙虚な思いは、自分本位の野心と虚栄に相對します（3 節）。これは、わたしたちの生まれながらの謙虚であってはならず、キリストの謙虚でなければなりません（8 節）。
 3. このような思い、このような考えは、キリストがご自身をむなしくし、ご自身を低くした時に、キリストの中にありました—— 7-8 節。
- B. 「この思い」を持つために、わたしたちはキリストの心の深みの中で、彼の優しい内側の感覚の中で、彼の考えの中で、彼と一である必要があります—— 1:8。
- C. キリストの思いがわたしたちの中にあるとは、この思いが生きたものであることを意味します。実は、キリストの思いは、キリストご自身です。なぜなら、キリストのパーソンは、彼の思いの中で現されるからです—— 2:5. 参照、I コリント 2:16, フットノート 1。

II. わたしたちはキリストを経験するために、彼が模範であることを知る必要があります——ピリピ 2:5-9：

- A. ピリピ第 2 章 5 節から 9 節において、パウロはキリストが模範であることを提示しています。わたしたちは、この模範がわたしたちの中へと注入されることを必要とします。
- B. クリスマン生活の模範は、神・人である救い主です。彼はご自身をむなしくし、ご自身を低くし、そして神によって高く引き上げられ、栄光が現されました—— 6-9 節：
1. 主は神と等しくありましたが、神と等しくあるのを固守し維持すべき尊いこととは見なませんでした。そうではなく、主はご自身をむなしくし、自分の所有しているもの（神の形）をわきに置きました—— 6-7 節前半：
 - a. 主は肉体と成ったとき、ご自身の神聖な性質を変えませんでした。
 - b. 彼は外側の表現を、神の形から奴隷の形へと変えただけでした。
 2. 主は、「人の姿に」なられました—— 7 節後半-8 節前半：
 - a. 「神の形」は、キリストの神格の内側の実際を暗示します。「人の姿」は、彼の人性の外側の表現を示します—— 6-7 節。
 - b. 彼が外側では人として、人々に現れました。しかし、彼は内側では神として、神格の実際を持っていました——ヨハネ 1:1, 14, 18. 3:16. ローマ 8:3。
 - c. キリストは人性の状態の中へと入り、人としての有り様で見いだされました

——ピリピ 2:8 前半。

3. キリストはご自身を低くして、死にまでも、すなわち十字架の死に至るまでも従順になりました—— 8 節後半：
 - a. ご自身を低くすることは、ご自身をむなしくすることのさらに進んだ一歩でした。
 - b. キリストがご自身を低くしたことは、彼がご自身をむなしくしたことを明らかにしました—— 7-8 節。
 - c. 十字架の死は、キリストの辱めの絶頂でした。
4. 御子は、喜んで自分自身をむなしくし、創造された人と成って、権威に対する服従を表しました—— 6-8 節：
 - a. 主イエスは服従することを心に定め、死に至るまでも服従の道を歩みました——イザヤ 50:7. ルカ 9:51. マルコ 10:31-34。
 - b. 主は「御子であられたのに、受けた苦しみによって従順を学ばれました」——ヘブル 5:8：
 - (1) 神は、キリストが死ぬべきことを定め、そしてキリストはそれに従いました——ピリピ 2:8。
 - (2) 彼は死の苦難を通して、この従順を学びました。
 - c. 生涯を通じて服従した主は、彼の服従の命をわたしたちに与えてくださいました。信者の従順は、キリストを従順の模範とすることの結果です—— 8 節. コロサイ 3:4。
5. 主は、極みに至るまでご自身を低くしました。しかし、神は彼を最高峰へと高く引き上げ、そして、「あらゆる名にまさる名」を彼に与えました——ピリピ 2:9。

Ⅲ. 今日の主の回復の中で、わたしたちの間には緊急の必要があり、それはキリストをわたしたちの模範として経験することです——ピリピ 2:3-8：

- A. わたしたちの模範であるキリストは、客観的であるだけでなく、主観的で経験できる方でもあります。模範を立てた方、またご自身が模範である方は、今や内住する神としてわたしたちの内側で活動しています—— 5 節, 12-13。
- B. わたしたちの生活のための内側の模範であるキリストの原則とは、たとえわたしたちが最高の地位の最高の標準を持っていたとしても、わたしたちはそれを固守すべきではないということです—— 3-6 節。
- C. わたしたちが生きる必要のあるキリストは、人の生活におけるキリスト、特にご自身をむなしくし、ご自身を低くしたことにおけるキリスト、また神と等しくあるのを尊いこととして固守しなかったことにおけるキリストです—— 1:20-21 前半. 2:6：
 1. わたしたちの中には、自分自身をむなしくし、自分自身を低くする命があります。
 2. この命は、何かを尊いこととして固守せず、常に進んで地位と称号をわきに置きます—— 3-6 節。
- D. わたしたちは、十字架につけられたキリストをわたしたちの模範として持っています。この模範は、わたしたちの内側の十字架につけられた命です—— I コリント 1:23 前半. 2:2. ガラテヤ 2:20. 3:1. 6:14：
 1. ピリピ第 2 章 5 節から 8 節におけるキリストの辱めの段階は、満ち満ちた方法で

生かし出された、十字架につけられた命の各面です。

2. キリストが十字架の死に至るまで従順であったことは、十字架につけられた命が満ち満ちた、また絶対的な方法で生かし出されたことでした—— 8 節。
3. わたしたちはキリストを生きる時、十字架につけられた命の模範である方を生きます—— 1:21 前半. I コリント 2:2。
4. わたしたちは十字架につけられた生活をすることによって、復活の力を経験することができます——ピリピ 3:10 前半. エペソ 1:19-22。
5. 地上の最高の生活は、十字架につけられた生活です。わたしたちが十字架につけられた生活をするときはいつでも、神はわたしたちを復活の中へともたらしめます——ピリピ 3:10-11。
6. わたしたちが、イエス・キリストの霊の満ちあふれる供給によって、十字架につけられた命としてのキリストを、わたしたちの日常生活の模範とするとき、キリストはわたしたちの日常生活の中で高く上げられます—— 2:5. 1:19-21 前半。